

Kitagata Driving School

普通車はもちろん
二輪車もあるよ!



免許の種類が
たくさん!

希望に合わせて
教習スケジュールが
組める!

北九大から
スクールバス
で約2分



北九大から1番近い
自動車学校!



みなさまの
お申込をお待ち
しています!



私たちが
サポート
します!



北九大専属指導員チーム



北方自動車学校

北九州市小倉南区葉山町2丁目7番1号
☎ 0120-154-485 ☎ 093-961-1431
<http://www.kitagata.jds.gr.jp/>



お得な情報をご案内します

Lab. Times + vol.6



「たべもの」を食べるだけの毎日から、
「たべもの」で世界を変える毎日へ。



contents

「たべもの」を食べるだけの毎日から、
「たべもの」で世界を変える毎日へ。

TOPICS

世界の「たべもの」、何が問題？

世界の食問題について考えよう。 P.4-6

何気なく食べているその1食を必要としている人がどれほどいるか、皆さんはご存知ですか？その1食で助かる命が世界にはたくさんあります。たまたま日本に生まれ、食べ物に不自由することなく暮らしてきた私たちが今できることは何か、一緒に考えましょう。問題に目を向けること、それこそが食問題に取り組む第一歩目です。



あなたは、昨日何を食べましたか？

「たべもの」は私たちが生きていくうえでとても大切なものです。しかし、そんな「たべもの」には沢山の問題が潜んでいることを知っていますか？

今回の Lab.Times+ は、食問題の現状を取り上げます。また食問題に取り組んでいる人々や 421Lab. のプロジェクトもピックアップしてみました。

読者の皆さんが「食問題」について考え、毎日の自分の食生活を見つめ直してくれると嬉しいです。

食問題に取り組む人たち。

P.6-11



食問題に取り組んでいる 421Lab. や北九州市立大学の学生・北九州市内の人々をご紹介します。

- 1 “食品ロス”の削減に取り組む人たち。
- 2 “フェアトレード”に取り組む人たち。
- 3 “TFT”に取り組む人たち。



短期型地域活動

あなたも地域活動に参加しよう。 P.14

編集後記

3年間の集大成の気持ちを綴りました。 P.15



まとめ

さいごに、食問題について。編集者より、ひとこと。



P.12-13



What is the problem?

世界の「たべもの」、何が問題？

あなたは、飢餓で苦しんでいる人が世界にどれだけいるか知っていますか？いま世界では8億2160万人、人口の10.8%にあたる9人に1人が慢性的な栄養不足に陥っています(※1)。それに対して私たちは、毎日好きなものを好きなだけ食べることができる環境にあります。なぜこのような差があるのでしょうか？世界中のすべての人が安全で栄養のある食事を十分に摂るにはどうしたら良いのでしょうか？まずは世界の食問題の背景に何があるのか、詳しく見ていきましょう。

「たべもの」は足りています。

世界の穀物生産量は毎年26億t以上で、在庫もあります(※2)。もしこれが世界に住む76億人に平等に分配されていれば、1人当たり年間340kg以上食べることができるはず(日本人が実際に食べている穀物は年間154kg)。世界中のすべての人が十分に食べられる食料は確保されているのです。では、なぜ食問題が発生するのでしょうか？

(※1) 国連食糧農業機関 (FAO)(2018年)

(※2) 国連食糧農業機関 (FAO)(2017-2018 概算値 / 2019年)

ではなぜ、飢餓が終わらないの？

01. 異常気象による農作物の不作。



飢餓で苦しんでいる人々の約7割が農村部に集中し、そのほとんどがアジアやアフリカに住む小規模な農家です。近年、地球温暖化による異常気象が原因で農作物の不作が多く報告されています。小規模な農家が農作物不作に陥ると十分に食べることができない上、安定した収入が得られなくなり、病院や学校に行けなくなるなど基本的な生活が成り立たなくなってしまいます。

02. 高く不安定な国際価格。

穀物の調達を海外からの輸入に頼っている開発途上国も多く、そのような国では、国際市場における食料価格の変化に食生活が左右されてしまいます。また経済的に貧しい人々ほど、その生活費に占める食費の割合が高い傾向にあります。そのため、食料価格が高騰したり、十分な収入が得られなかったりすると、食事の回数や量を減らさざるを得なくなってしまいます。



03. たくさん捨てている私たち。



一方で、飢餓で苦しんでいる人々が多くいるにも関わらず、世界では食用に生産された食料の1/3にあたる13億tが捨てられています(※3)。ゴミが増えると運搬や燃焼のために使う化石燃料の使用量が増え、多くの温室効果ガスが排出されます。これにより地球温暖化はますます深刻化します。そしてその影響を大きく受けるのはアジアやアフリカなどの開発途上国に住む小規模な農家なのです。あなたは、むやみにたべものを残したり捨てたりしていませんか？

(※3)FAO「世界の食品ロスと食料廃棄-その規模、原因および防止策(2011年)」

食問題に取り組む人たち。

世界には食問題が取り残されています。
一方で、その解決に取り組む人もいます。

「たべもの」を食べるだけの毎日ではなく、
「たべもの」で世界を変える毎日を送っている人たちは
今何を思い、何に取り組んでいるのでしょうか。

学生ならではの活動から、地域に根ざした活動など、
様々な取り組みを取りあげました。

想いのこもった一つひとつの活動を
ぜひご覧ください。



▶421Lab.
食べる国際貢献PJ



▶421Lab.
『食』から学ぼうPJ



▶北九州市立大学
三宅ゼミ



▶北九州市立大学
Etica



▶小倉北区
一生もん shop 緑々

“TFT”に取り組む人たち。

“TFT” = 「Table For Two」(「二人の食卓」)。TFTメニューを購入すると、開発途上国の給食1食分である20円が寄付される仕組みのこと。肥満の問題を抱える先進国と飢餓に苦しむ開発途上国の双方にメリットがあるとして、全国で展開されている国際貢献運動。

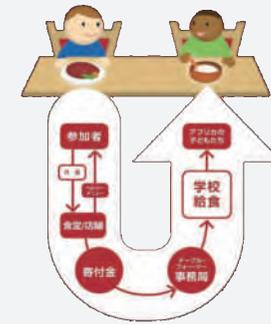
421Lab.

食堂という身近な場所から世界に向けて貢献しています！

「食べる国際貢献プロジェクト」

世界では全人口70億人のうち20億人が肥満に苦しむ一方、10億人は飢餓に苦しんでいるという食の不均衡が問題になっています。この問題を解決するためにTFTは全国の食堂や食堂などで「Table For Twoメニュー」を販売し、1食につき20円を途上国の子どもたちの給食1食分の寄付金として届けています。421Lab.の「食べる国際貢献プロジェクト」も北九大の大学生協と協力し、月1度、2週間ほどTFTフェアを開催し、北九大オリジナルのTFTメニューの販売や広報活動などを行っています。

過去のメニューです！



あなたの**1食**が誰かの**1食**を支援します。

実際に活動している学生の声



1年生の4月、大学という新生活の中で今までとは違うことをしたいと思って始めたのが、このTFTです。学食という身近な場所から世界の貧しい国々の子ども達へと、気軽に国際貢献ができる事が魅力的でした。確かに、私達が活動する場所から支援先までに何千キロもの隔たりがあり、活動が成果が感じられにくい事もあります。しかし、活動の目的を見失わず、世界の食の不均衡という問題に大学生なりにアプローチするために日々の活動に励んでいます。

経済学部・2年・男性

“食品ロス”に取り組む人たち。

421Lab.

若者に、食べること・作ることの大切さを伝えています！

「『食』から学ぼうプロジェクト」

「『食』から学ぼうプロジェクト」は、自炊をせずコンビニ食や学食で食事を済ませる大学生や、食に関する知識が少ない子ども達を対象に、食に対する関心を高めることを目的として活動しています。

あしはらピッコロ

足原地区に住んでいる小学生を対象に、お昼ご飯を振る舞う取り組みです。私たちは年に2回担当し献立から考えます。

子ども食堂にて、毎回約60食もの食事を作るとともに、食品ロスについて子ども達に説明をするなどの啓発活動も行っています。

実際に活動している学生の声

フードロス食品の存在や活動を知ったことで、自宅にある食材を整理してフードバンクに寄付しました。少しではあるけれど参加できたことはとても嬉しく思いました。また、以前はほとんど外食、中食で済ませていた食生活を自炊に切り替え、食材を無駄にしないことを意識するようになりました。

法学部・2年・男性

マイ弁当デー

学生が各自宅でお弁当を作りそれを SNS に投稿しています。SNS に投稿しているのは見ている方もお弁当を作りたい思ってもらうためです。回数を重ねるたびに色使いや見た目にも変化が出ており、トルティーヤを手作りする学生まで！！

実際に本プロジェクトの学生が作ったお弁当です！

法学部・2年・男性

08

地域創生学群・3年・女性

“食品ロス” = 売れ残りや食べ残し、期限切れ食品など、本来は食べることができたはずの食品が廃棄されること。

北九州市立大学

学内・学外問わず様々な場所で活躍しています！

「三宅ゼミ」

北九州市立大学法学部政策科学科三宅ゼミの「食ロス削減学生プロジェクト」では、まだ食べられるのに廃棄される食品のロスを減らすこと、つまり「食ロスの削減」を目的に活動しています。



三宅ゼミの学生さん達

実際に活動している学生の声

活動を始める前は、買い物の際、予備として多めに食品を購入していましたが、活動を始めてからは、消費できる量を考えて購入するようになりました。また、消費しきれない食品がある場合は、廃棄せずに寄付することを心がけるようになりました。普段私たちがどれほど多くの食品を廃棄しているのか、そして私たちが簡単に捨てている食品を必要としている人々は想像以上に多いということを皆さんに知っていただきたいです。そして皆さんが意識すれば、食ロスは減らすことができるのです。

法学部・3年・女性

食ロス削減学生PJの主な活動

1. NPO 法人フードバンク北九州ライフ アゲインさんとのフードバンクの開催
2. 福岡県庁の方と食品ロス削減の啓発活動
3. 高校でのスタディツアー
4. 韓国での食品ロス削減への取り組み

普段の生活に少しだけ **食** の意識を持って
ロス削減

日ごろから、学生には栄養バランスも考えた上で、調理は自ら行い、健康に気を付けよう！と言っています。しかし自らを振り返ると、スーパーマーケットでは、欲に負け、あれもこれも調理をしたいとのことで、買いすぎます。結局、使いきれないままの食材が冷蔵庫に残ることもあります。冷蔵庫の中を一週間に一度整理をできればいいですが、根が掃除嫌いの私には、それも簡単にできません。学内でフードドライブを実施しているゼミ生はどうでしょうか。食ロス削減を人に訴えかけるばかりでなく、自らの生活もよく見てほしいものです。食ロス削減運動が意味することは何か、もう一度深く考えてみたいものです。

法学部 三宅先生

09

“フェアトレード”に取り組む人たち。

北九州市立大学

北九大生に向けて熱い気持ちとフェアトレード商品を届けています！

「Etica」

この活動では、北九大生の有志が集まり、①フェアトレードについて知ってもらうこと、②フェアトレード以外の方法でも地域や消費者に貢献すること、この2つを目指して、大学内でフェアトレード商品の販売や啓発活動を行っています。



様々な学部の学生が参加

“フェアトレードにはストーリーがある”

「フェアトレードの商品の値段は高いかもしれない。でも、何かの記念で自分のために購入したり誰かにプレゼントとして送ったり、時々でもいいので手にとって買ってもらいたい。(大平先生) 大平先生をはじめ、Eticaに参加する学生たちは、このような思いで活動をされています。あなたも、Eticaでフェアトレード商品を購入してみませんか。



地下パーラーで週に2回程度販売中

私は皆さんにまず、フェアトレードとは何かということをごきちんと理解してもらいたいです。商品とか産品を手にとってもらう、そのときにお店であれば、売っている我々の方から、これはこういうふうなストーリー、背景があって...ということをお伝えしています。産品にはよくそういうストーリーがパッケージに書かれているので、それを通してフェアトレードの理解を促進したいと考えています。今後は認知度を高めるためのDVD上映会を行い効果的に宣伝していきたいです。

外国語学部 大平先生

“フェアトレード” = 「公平・公正な貿易」。開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易のしくみ。

あおお

商品1つ1つに思いを込めて販売しています！

「一もん shop 緑々」

小倉駅から徒歩5分の所にある雑貨店。

店内にはコーヒーや紅茶をはじめとしたフェアトレードの商品が数多く並んでいます。

低賃金で働いている生産地の人々に対等に暮らしてもらうためフェアトレード商品を販売するようになった「一もん shop 緑々」。チャリティー活動ではなく、パートナーとしての関係を継続し、生産側の技術向上や活動自体の知名度アップがオーナーさんの望みです。

お買い物とは“投票する”ということ。

買い物をするとき、ただ安いから、量が多いから、という理由で決めるのではなく、フェアトレード商品であることが当たり前の理由になる世の中になってほしいです。



実際に店舗で販売されている英国の紅茶。原材料はフェアトレード原料とオーニック原料のみで作られています。



「たべもの」を食べるだけの毎日から、 「たべもの」で世界を変える毎日へ。

今回の Lab.Times+ は「食」について取り上げてみました。
“世界の食に関する問題”と言うとどこか他人事として考えがちですが、
実際は私たちの近くに存在します。



国際社会は、持続可能な開発目標（SDGs）において、
2030年までに「飢餓をゼロに」することを約束しています。
「食べる権利」は、すべての人が生まれながらに持っている権利です。
世界中のすべての人がその権利を果たすためには、
国際社会や私たち一人ひとりの協力が必要不可欠です。



私たちの食生活は世界の食問題に深く関わっています。すべての
の人が食べる喜びを分かち合うことができる世界にするために
は、まずは自分の毎日の食事を見つめ直すことが大切ではない
でしょうか。食べきれだけの量を買う、食べ残しをしない、
またフェアトレード商品を購入するなど、何かできることがあ
るはずです。あなたも「たべもの」で世界を変えてみませんか。

2030年 までに 飢餓を ゼロに。



短期型地域活動のご紹介

421Lab. では定期的に募集を行っている短期型地域活動があります。子どもとの交流やスポーツ試合でのサポートなど内容は様々です。応募は421Lab. でできます。興味のある方は是非お越しください。

1. 生き生き子ども講座

毎月一回、北方市民センターで開催しています。体を動かしたり、調理をしたりと様々な活動を通して小学生と関わることができます。過去には大運動会やハロウィンコスプレ作りなど季節にあった企画を行いました。大学生の参加者も多く、子どもと一緒に楽しく活動ができます。

子どもが好きな人におすすめです！



2. greenbird

毎週金曜日 16:20～

毎月第3土曜日 13:20～

北方周辺で地域の方と一緒に定期的な清掃活動を行っています。大学生以外にも中高生・社会人の方など様々な参加者がいるのでコミュニケーションを取りながら楽しく活動できます。

地域の人とコミュニケーション
をとりながら活動しています！



3. ギラヴァンツ北九州ホームゲーム応援ボランティア

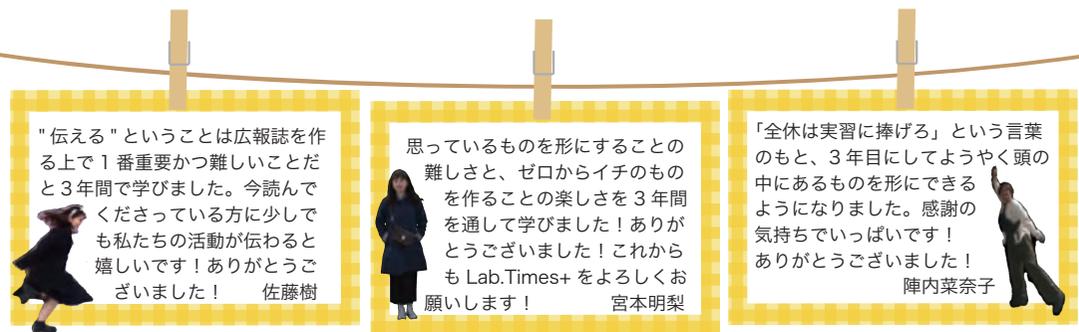
ギラヴァンツ北九州のホームゲームでのボランティアです。荷物運びや設営などを行う前日の会場準備とチケット確認や清掃などを行う運営ボランティアの二つがあります。当日のボランティアでは試合応援もできるのでスポーツが好きな方はぜひご参加ください！

スポーツが好きな人におすすめです！

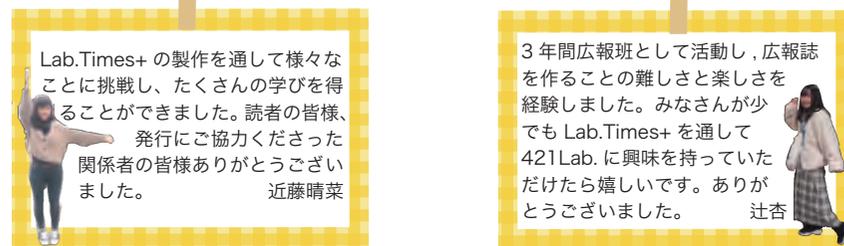


編集後記

Lab.Times+ vol.6 を最後まで読んでくださりありがとうございます。Lab.Times+ も今回で6冊目となりましたが楽しんでいただけたでしょうか？さて本号は、今秋学生運営スタッフを引退する3年生が作成しました。そこで最後にこれまでの感謝とともに、読者の皆さんにご挨拶させていただこうと思います。



ありがとうございました。



発行：北九州市立大学地域共生教育センター
発行日：2019年11月

編集：北九州市立大学地域共生教育センター
学生運営スタッフ3年

佐藤樹（編集長）・

近藤晴菜・陣内菜奈子・辻杏・宮本明梨

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4-2-1

[Tel] 093-964-4092

[Mail] info421@kitakyu-u.ac.jp

▼Twitter



▼Facebook

